稲作情報

平成31年4月 12日

おいしい「魚沼コシヒカリ」生産のため
土づくりからスタート

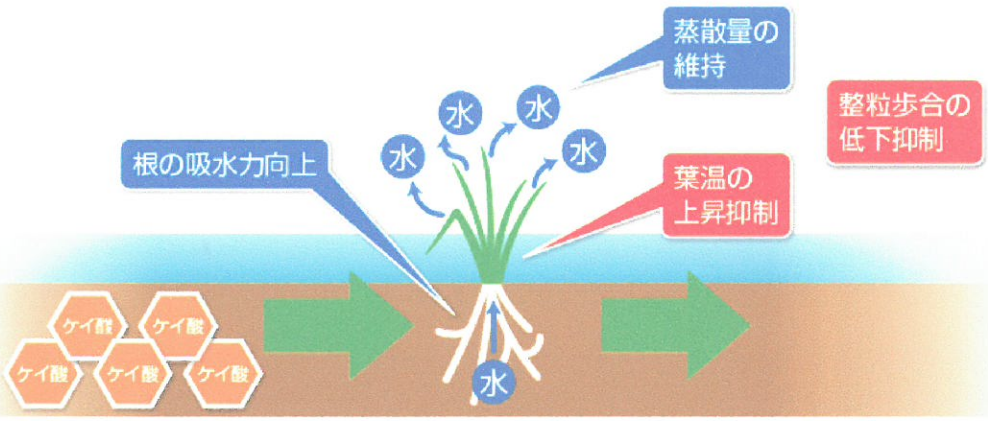
４月10日気象庁発表のエルニーニョ監視速報では、今後夏にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高いと発表されています。
エルニーニョ現象が発生しているときは、夏期の気温が低く日照時間が少なくなる傾向があります。

土づくりにより、低温・高温の気象変動に強い稲を作り、消費者の期待に応え続ける「日本一おいしい米」を生産しましょう。

1　土壌診断に基づき、ケイ酸を施用しましょう！

○ケイ酸で、低温・高温の気象変動に強い稲になり、登熟向上が期待されます。
土壌診断に基づき、ケイ酸資材を施用しましょう。

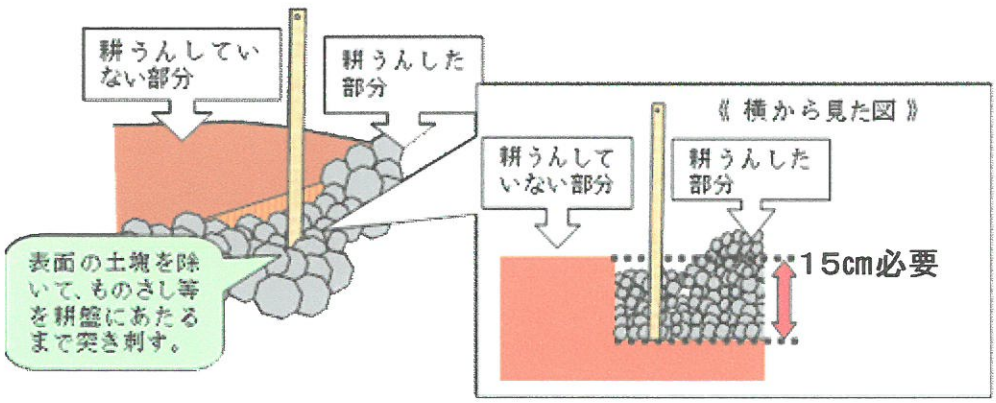
・ケイ酸が不足の場合　→　越後の輝きソイル米スター：30～45kg/10a
魚沼ロマンソイルキーパー：40～60kg/10a
・ケイ酸と鉄が不足の場合 → 魚沼ロマンアイアンスター：60～80kg/10a



土壌中のケイ酸の効果

2　15cmの耕深で十分な作土深を確保しましょう。

○根の量が増えて、品質や収量が向上します。
○厚みのある定規（魚沼スケール君）などを使用し、耕深を確認しながら作業を実施しましょう。



不明な点は農協営農センターまたは普及センターまでおたずねください。携帯メール会員募集！営農センターへお問い合わせください。

魚沼地域農業振興協議会・JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター